

## 令和5年度 大阪緑涼高等学校 学校評価

### 1. 目指す学校像

1. 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
2. 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
3. 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
4. HR活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
5. 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
6. 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
7. 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校
8. 危機管理（新型コロナウイルス感染症対策・セキュリティ等含む）の重要性を理解し、安全のために予防対策を徹底して講じる学校

### 2. 中期目標

#### ○学習指導

1. 全教員は自身の授業に責任を持ち、授業規律の確立と学習効果をあげる方策を熟考・精査し、実践する。
2. ICT機器を活用した「主体的、対話的で深い学び」につながる魅力ある授業を実践する。
3. 必要とされる生徒への補習体制を強化し、一定の基準を満たさない場合は必須の補習を実施する。
4. 生活と学びを通して生徒の協同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。
5. 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力の向上に努める。
6. 英語検定・漢字検定・簿記検定等、各種検定の重要性・意義の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。

#### ○生活指導

1. 生徒の行動や状況を把握し、積極的にコミュニケーションを図り、問題事象が発生する前に予防的な指導を行う。
2. 日々の教育活動で、挨拶の励行を実施する。
3. 分掌・学年・担任・クラブ顧問等が連携し、問題事象について有効的な改善策を早期に講じる。また、適宜、校長・教頭・教頭補佐と情報共有する。
4. 遅刻や欠席が多い生徒については、原因を把握した上で保護者とも連携・協力して生活指導を行い改善に繋げる。
5. 頭髪を含めた身だしなみ等の校則違反に対し、全教職員の同一理解と指導体制の構築を行い、差異のない指導を行う。
6. いじめの早期発見と対応に向けて、学期ごとに全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、いじめ事象の有無についての把握と実態の解明・分析を行い、早期発見と解決に繋げる。
7. 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、家庭とも連携しその発達課題に応じた丁寧な指導を行う。
8. 行事や生徒たちの自治的活動を通して、一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。
9. 18歳成人となる生徒たちに大人になる準備・心構え・責任を持つことの重要性を日常の生活指導を通じて教示する。
10. 制服改定に伴い、生徒会役員を中心に生徒が係る機会を設け、より良い制服の導入を行う。

#### ○進路指導

1. 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。
2. 放課後学習・長期休暇中の補習を通じて、大学入学共通テスト・一般受験にも積極的にチャレンジできるように教科指導の機会を増やし習熟度を高める。
3. 大阪商業大学・神戸芸術工科大学との高大連携を進めるため、総合的な探求の時間やキャンパスツアーを活用し、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。
4. 指定校推薦・協定校推薦の一層の充実が図れるよう大学・短大・専門学校との個別連携を深める。
5. 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努め、就職に特化した指導に注力する。
6. 調理製菓科では現場のシェフやパティシエ・パティシエールを招いた授業を取り入れ、インターンシップなどの参加を積極的に促し、ホテル・レストラン等と連携しながら生徒たちのキャリア育成を図る。

#### ○広報活動

1. 生徒が十分に学び成長することが、最大の広報活動につながることを認識し、日々の教育活動を行うとともに、渉外活動を通じて中学校との関係を強化する。
2. 大阪市・堺市の北部への開拓を深化させ、「近隣地域」の幅を広げて広報活動を展開していく。
3. パンフレット・Webサイトに本校の魅力を十分に盛り込み、募集行事参加者の増加を図る。
4. 合理的・有効的にサマーフェスタ・オープンスクール・学校説明会・個別相談会等を実施していく。

#### ○地域連携

1. 生徒たちの学びと成長の場である藤井寺・春日丘地域を美しく保全するため地域清掃等に取り組む。
2. 水と緑の豊かなキャンパスを地元の保育園・幼稚園、親子散歩コースとして開放し、絵本読み聞かせ講座等を実施し、地域貢献を通して幼児教育の専門家を養成してきた藤井寺キャンパスの役割を継承する。
3. 課外活動・クラブ活動に地域の親子が参加するイベント等を行い、住民とつながることで、藤井寺・南河内に根ざし、なくてはならない学校として定着するよう取り組む。
4. 本校の教員・生徒が中心となって公開講座や講習・展示を行う。
5. 生徒たちは、高校在学中に大人になるため、早期から藤井寺市の政策・事業について学び、審議会を傍聴すること等で、成人としての自覚や地域貢献の意識を高めていく。

[自己評価アンケートの結果と分析(令和6年2月実施分)]	学校評価委員会からの意見																													
<p>○あなたは本校に入学してよかった・子どもを本校に入学させてよかった</p> <table border="1" data-bbox="170 281 919 477"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計1</th> <th colspan="2">2023年度</th> <th colspan="2">2022年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>62.6%</td> <td>70.3%</td> <td>54.0%</td> <td>73.0%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>24.8%</td> <td>20.4%</td> <td>31.5%</td> <td>20.4%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>12.6%</td> <td>9.3%</td> <td>14.5%</td> <td>6.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の肯定的意見が増加し、中間的意見及び否定的意見が減少しているが60%超にとどまっており、改善が必要。また、保護者は肯定的意見が減少し、否定的意見が増加している。保護者においては特に情報発信や生活指導領域についての評価が低下しておりこれらが満足度の低下の要因と考えられる。 【自己評価△】</p>	アンケート集計1	2023年度		2022年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	62.6%	70.3%	54.0%	73.0%	中間的意見	24.8%	20.4%	31.5%	20.4%	否定的意見	12.6%	9.3%	14.5%	6.6%	<p>保護者の高い信頼は日常的に丁寧で親身な教育を積み重ねてきた成果であり、本校一定の評価として定まってきている。一方で生徒の否定的な捉え方は一定改善したものの、自分の成長を十分実感できていない状態にあると言える。学習指導・進路指導・生活指導のあり様の検証と改善を行い、満足いく高校生活を送ることができるような学校でなければならない。また、保護者へ発信する情報の質を向上させることで、保護者の信頼を得ていくことも進める必要がある。</p>					
アンケート集計1		2023年度		2022年度																										
	生徒	保護者	生徒	保護者																										
肯定的意見	62.6%	70.3%	54.0%	73.0%																										
中間的意見	24.8%	20.4%	31.5%	20.4%																										
否定的意見	12.6%	9.3%	14.5%	6.6%																										
<p>○学校は建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている</p> <table border="1" data-bbox="170 697 919 934"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計2</th> <th colspan="2">2023年度</th> <th colspan="2">2022年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>55.5%</td> <td>60.2%</td> <td>51.7%</td> <td>55.9%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>33.3%</td> <td>27.6%</td> <td>34.4%</td> <td>37.8%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>11.2%</td> <td>12.2%</td> <td>13.6%</td> <td>6.3%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td></td> <td></td> <td>0.3%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の否定的意見が減少しているということは、一定、建学の理念や教育目標を日々の教育を通じ生徒に示していると考えられる。しかし、保護者の否定的意見が増えているという点において、十分とは言えない。 【自己評価△】</p>	アンケート集計2	2023年度		2022年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	55.5%	60.2%	51.7%	55.9%	中間的意見	33.3%	27.6%	34.4%	37.8%	否定的意見	11.2%	12.2%	13.6%	6.3%	無回答			0.3%		<p>生徒は日々の活動を通じ、教育目標や建学の理念を学んでいくが、保護者に対しては、十分に示すことができていない。生徒・保護者ともより具体的に実感できる取り組みを行う必要がある。</p>
アンケート集計2		2023年度		2022年度																										
	生徒	保護者	生徒	保護者																										
肯定的意見	55.5%	60.2%	51.7%	55.9%																										
中間的意見	33.3%	27.6%	34.4%	37.8%																										
否定的意見	11.2%	12.2%	13.6%	6.3%																										
無回答			0.3%																											
<p>○学校は学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている</p> <table border="1" data-bbox="170 1151 919 1347"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計3</th> <th colspan="2">2023年度</th> <th colspan="2">2022年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>74.4%</td> <td>76.4%</td> <td>63.2%</td> <td>82.0%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>20.5%</td> <td>17.9%</td> <td>30.0%</td> <td>15.3%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>5.1%</td> <td>5.7%</td> <td>6.8%</td> <td>2.7%</td> </tr> </tbody> </table> <p>情報発信についてはおおむね評価されていると考える。一方で、保護者の評価が否定的傾向にあるのは、量的な部分と同時に質的な向上が求められていると考える。 【自己評価△】</p>	アンケート集計3	2023年度		2022年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	74.4%	76.4%	63.2%	82.0%	中間的意見	20.5%	17.9%	30.0%	15.3%	否定的意見	5.1%	5.7%	6.8%	2.7%	<p>ホームページでの情報公開の回数、さくら連絡網による情報・連絡の発信が前年度より増え、量的には発信できている。一方で保護者の評価が否定的な状況は、発信する情報の質やタイミングに課題があると考えられる。</p>					
アンケート集計3		2023年度		2022年度																										
	生徒	保護者	生徒	保護者																										
肯定的意見	74.4%	76.4%	63.2%	82.0%																										
中間的意見	20.5%	17.9%	30.0%	15.3%																										
否定的意見	5.1%	5.7%	6.8%	2.7%																										
<p>○学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している</p> <table border="1" data-bbox="170 1567 919 1804"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計4</th> <th colspan="2">2023年度</th> <th colspan="2">2022年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>66.9%</td> <td>62.4%</td> <td>59.5%</td> <td>70.6%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>24.9%</td> <td>30.8%</td> <td>34.3%</td> <td>25.0%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>8.2%</td> <td>6.8%</td> <td>6.2%</td> <td>3.5%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td></td> <td></td> <td>0.9%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>毎月の保健便りの発行と記事の適正化、カウンセラーからの文書の配付を生徒中心に行った結果、生徒の肯定的意見は増加したが、保護者は減少した。この点で保護者への発信は足りていないと思われる。 【自己評価△】</p>	アンケート集計4	2023年度		2022年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	66.9%	62.4%	59.5%	70.6%	中間的意見	24.9%	30.8%	34.3%	25.0%	否定的意見	8.2%	6.8%	6.2%	3.5%	無回答			0.9%		<p>保健室からの情報発信や、保健室での活動等を通じ、生徒は一定健康維持への支援を感じていると考えられるが、一方で、否定的意見が微増しており、来室時の受け入れ態勢等も含め対応が必要である。また、そうした校内の活動が保護者まで届いていない場面が想定されるので、保健室からの発信機能も強化していく必要がある。</p>
アンケート集計4		2023年度		2022年度																										
	生徒	保護者	生徒	保護者																										
肯定的意見	66.9%	62.4%	59.5%	70.6%																										
中間的意見	24.9%	30.8%	34.3%	25.0%																										
否定的意見	8.2%	6.8%	6.2%	3.5%																										
無回答			0.9%																											
<p>○教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけでなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している</p> <table border="1" data-bbox="170 2021 919 2267"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計5</th> <th colspan="2">2023年度</th> <th colspan="2">2022年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>68.1%</td> <td>58.8%</td> <td>60.9%</td> <td>59.7%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>24.9%</td> <td>31.2%</td> <td>30.0%</td> <td>34.1%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>7.0%</td> <td>10.0%</td> <td>9.1%</td> <td>6.0%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>0.2%</td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒の肯定的意見が増加している結果から、朝終礼において担任による生徒指導等の活動が行われていると考える。 【自己評価△】</p>	アンケート集計5	2023年度		2022年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	68.1%	58.8%	60.9%	59.7%	中間的意見	24.9%	31.2%	30.0%	34.1%	否定的意見	7.0%	10.0%	9.1%	6.0%	無回答				0.2%	<p>朝礼・終礼、HRで担任が何をどのように伝えるか、生徒たちの声をどのように受け止めるかは、生徒指導やクラス作りをしていく上で非常に重要だが、この点においては、一定評価できる結果である。今後さらに、生徒たちへの話し方、生徒たちの声の聴き方、クラスや生徒の状態を観察するまなざし、そうしたことへの教員の意識のあり様を複合的に検証し、中間的意見を肯定的意見に転じさせていかなければならない。</p>
アンケート集計5		2023年度		2022年度																										
	生徒	保護者	生徒	保護者																										
肯定的意見	68.1%	58.8%	60.9%	59.7%																										
中間的意見	24.9%	31.2%	30.0%	34.1%																										
否定的意見	7.0%	10.0%	9.1%	6.0%																										
無回答				0.2%																										
<p>○教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている</p> <table border="1" data-bbox="170 2427 919 2674"> <thead> <tr> <th rowspan="2">アンケート集計6</th> <th colspan="2">2023年度</th> <th colspan="2">2022年度</th> </tr> <tr> <th>生徒</th> <th>保護者</th> <th>生徒</th> <th>保護者</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>肯定的意見</td> <td>71.6%</td> <td>67.1%</td> <td>60.1%</td> <td>66.0%</td> </tr> <tr> <td>中間的意見</td> <td>22.6%</td> <td>24.7%</td> <td>31.1%</td> <td>26.7%</td> </tr> <tr> <td>否定的意見</td> <td>5.8%</td> <td>8.2%</td> <td>8.3%</td> <td>7.3%</td> </tr> <tr> <td>無回答</td> <td></td> <td></td> <td>0.5%</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>生徒は、中間的意見、否定的意見とも減少し、肯定的意見が増加している。これまで行ってきた生徒からの相談や個別学習支援等の活動が一定評価されてきた表れと考える。 【自己評価△】</p>	アンケート集計6	2023年度		2022年度		生徒	保護者	生徒	保護者	肯定的意見	71.6%	67.1%	60.1%	66.0%	中間的意見	22.6%	24.7%	31.1%	26.7%	否定的意見	5.8%	8.2%	8.3%	7.3%	無回答			0.5%		<p>生徒の肯定的意見と中間的意見と合わせたならば94.2%という評価となる。また、この増加の結果は、中間的意見と否定的意見の減少であり、生徒が十分に聞いてもらえているという思いを持っていることの証であり、そのことを保護者にも伝えていられると思われる。相談を受ける際、生徒の思いをどのように、どの程度くみ取れているか、生徒が必要としているタイミングで応じているか、できない場合の対応等はどうか、より一層自己点検し、改善していかなければならない。</p>
アンケート集計6		2023年度		2022年度																										
	生徒	保護者	生徒	保護者																										
肯定的意見	71.6%	67.1%	60.1%	66.0%																										
中間的意見	22.6%	24.7%	31.1%	26.7%																										
否定的意見	5.8%	8.2%	8.3%	7.3%																										
無回答			0.5%																											

○教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている

アンケート集計 7	2023 年度		2022 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	68.9%	56.0%	59.6%	56.8%
中間的意見	24.4%	33.7%	32.4%	35.5%
否定的意見	6.7%	10.3%	8.0%	7.7%

生徒は、中間的意見、否定的意見とも減少し、肯定的意見が増加している。一人ひとりの学力の実態を把握しつつ、ICTの利用等「わかる授業」「対話的で深い授業」についての探究が必要である。

【自己評価△】

授業という場面における教員の創意工夫は一定生徒に届いていると評価できる。しかし、肯定的意見は70%を切っており、高校における学習の基本が授業とすると、より一層改善を行っていく必要がある。また、ICTの利用や個別最適化等、学習を取り巻く環境は大きく変化し続けており、教員各自の自己研鑽のみならず、組織的な体制を整えることで、より良い授業づくりを行っていく。

○教員は英語検定や漢字検定等、将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している

アンケート集計 8	2023 年度		2022 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	70.7%	66.0%	62.7%	67.8%
中間的意見	24.0%	26.5%	29.0%	26.5%
否定的意見	5.3%	7.5%	8.1%	5.7%
無回答			0.2%	

英検における文理ハイレベルコースの対策授業や、関係教科の教員による放課後の補習や個別指導と、指導体制は整備されつつあると考える。

【自己評価△】

検定取得の有意・有効性について生徒に伝え、放課後の講座や朝の漢検対策プリントといった活動の実施したことが、一定の評価に表れている。しかし、これらの活動が受検結果に繋がっておらず、「十分な指導・支援」とは言えないと捉えられる評価になっている。主体的に学習に取り組む生徒の絶対数を増やすためにも、単なる情報提供にとどまらない、意識付けの在り方も検討し実行していかなければならない。

○教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている

アンケート集計 9	2023 年度		2022 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	70.7%	60.2%	63.5%	62.7%
中間的意見	24.7%	30.1%	29.0%	31.6%
否定的意見	4.6%	9.7%	7.5%	5.3%
無回答				0.4%

他の学習領域同様、生徒については中間的意見と否定的意見が減少し、肯定的意見が増加している。教科単位、教員単位での様々な取り組みが評価されつつあると考える。

【自己評価△】

「わかる授業」や放課後の学習活動等が基礎学力の定着と向上に繋がっていると生徒は一定評価しており、否定的意見の減少に繋がっている。授業の改善による学力の定着と向上の促進や放課後等を利用した学習活動への促し等をより強力に進めていくことが最重要課題である。また、ICTを利用した個別最適化による「学び直し」「学習内容の定着」に向けた活動の検証が必要である。

○教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している

アンケート集計 10	2023 年度		2022 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	70.9%	68.1%	63.1%	65.0%
中間的意見	23.7%	24.4%	29.3%	28.9%
否定的意見	5.4%	7.5%	7.6%	6.1%

肯定的意見が微増した。これは、進路指導において情報提供・指導とも一評価できるものであったと考える。

【自己評価△】

進路希望は情報提供にとどまらず、目標が具体化されていない生徒たちと粘り強く対話し、アドバイスを重ねることが求められる。そうした進路相談を通して信頼関係を構築し、確かな選択へ繋げていくことが必要である。令和5年度の結果については、この点において一定評価できる。各科・各コースの生徒たちが自らの力で進路を決定できるよう、進路情報をきめ細かく提供し、相談に応じることを、これまで以上に早期から丁寧に何度も行っていくことが重要である。

○緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している

アンケート集計 11	2023 年度		2022 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	68.6%	76.0%	61.3%	76.1%
中間的意見	22.8%	17.6%	28.6%	18.9%
否定的意見	8.6%	6.4%	10.1%	4.8%
無回答				0.2%

コロナ禍以降、ほぼ全面的に緑涼祭や弁論・コーラス大会等、各種行事を実施した結果が肯定的意見の増加に繋がっている。

【自己評価△】

○教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している

アンケート集計 12	2023 年度		2022 年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	62.6%	55.6%	56.6%	57.5%
中間的意見	31.1%	35.5%	33.8%	35.3%
否定的意見	6.3%	8.9%	9.6%	7.2%

十分とは言えないが、否定的意見が減少し、肯定的意見の増加分に回っている点から、一定活動状況は評価されたと考える。

【自己評価△】

各種の学校行事やクラブ活動、生徒会活動は、生徒たちに充実した高校生活を保障し、生徒の成長を促すうえで極めて重要であり、これらの活動をいかに担い、活動機会を設定・維持していくことが大切である。肯定的意見が、アンケート集計11で68.6%、アンケート集計12で62.6%という点については、おおむね評価できる。しかし、70%を超えることができていないということは、各行事やクラブ活動を通しての教員と生徒との関わりについてはまだ十分ではないと言える。行事に取り組むこと自体を目的とするのではなく、行事を通じて何を学ばせるのか、その為にとどのように取り組ませるのか、生徒に対する声掛けはどうしているか、担任・学年団による仕掛けは必要であり、この点において点検・評価し、取り組み方を検討・実行する必要がある。

○学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている

アンケート集計 13	2023年度		2022年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	63.5%	55.9%	54.9%	62.7%
中間的意見	25.8%	28.3%	31.3%	26.6%
否定的意見	10.7%	15.8%	13.6%	10.7%
無回答			0.2%	

生徒に納得のいく丁寧な説明をしつつ、指導を行うという姿勢について、中間・否定的意見とも減少し肯定的意見が増加しているという結果から、一定の評価を得ていると考える。

【自己評価△】

学校生活の基本である遅刻や身だしなみ、頭髪等について指導への理解は定着してきており、教員間の基準や指導のタイミングも一定共有され、生徒たちへなぜその指導を行うのかについての説明も十分ではないが行われている。今後も、より一層、丁寧に粘り強い教員個々の指導が求められている。

○学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている

アンケート集計 14	2023年度		2022年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	61.8%	42.7%	56.5%	50.0%
中間的意見	29.6%	40.5%	33.9%	39.0%
否定的意見	8.6%	16.8%	9.6%	10.8%
無回答				0.2%

生徒の肯定的回答は60%超だが、十分とは言えない。しかし、保護者の評価が40%超でとどまっている点は、相談への対応や本校の取り組みが十分に伝わっていない表れと考える。今一度、アンケート実施後の連携体制強化と迅速な対応の重要性を全教員の共通理解としていく。

【自己評価△】

○学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している

アンケート集計 15	2023年度		2022年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	63.5%	48.4%	58.5%	52.2%
中間的意見	29.3%	39.1%	32.9%	42.0%
否定的意見	7.2%	12.5%	8.6%	5.1%
無回答				0.7%

生徒の評価は日々の教育を通じ人権についての意識高揚が一定はかかれている結果と考えられる。今後、まずは中間的意見が減少するよう日々の教育を行う必要がある。

【自己評価△】

担任中心に学期ごとのいじめアンケートと日常的な生徒の動向を把握し、その萌芽に気づき、適切な手立てをとることで、いじめなど深刻化する前に対応していることが、生徒の中間的意見と否定的意見の減少に繋がっている。しかし、保護者に対し、そうした活動を十分に伝えることができていない点において、評価が40%超でとどまっている原因と考える。いじめアンケートと言ったスポット的な取り組みだけでなく、日常の様々な場面において、教員が人権に対する意識を持ち、生徒・保護者に伝えていくという活動を、今まで以上に取り組まなければならない。

○学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している

アンケート集計 16	2023年度		2022年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	66.5%	59.5%	57.5%	67.3%
中間的意見	26.7%	35.8%	34.4%	27.9%
否定的意見	6.8%	4.7%	8.1%	4.8%

保護者の否定的意見が微減であり、家庭において生徒が保護者に支障を訴えているという状況は少ないと考える点からも、高校生活に支障を大きく感じていないと考える。

【自己評価△】

生徒にとっては、高校生活に大きな支障を感じていないし、環境やルールについては評価をしていると考える。しかし施設・設備の老朽化等に対する対応や、男子生徒の増加に伴う使用方法の変化(これまでのようには丁寧に扱えない)ことなどを考慮に入れた整備等が必要と考える。

○学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている(総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等)

アンケート集計 17	2023年度		2022年度	
	生徒	保護者	生徒	保護者
肯定的意見	60.2%	59.5%	54.3%	61.6%
中間的意見	31.9%	36.2%	37.2%	34.4%
否定的意見	7.9%	4.3%	8.5%	3.8%
無回答				0.2%

地域社会との連携に直接関わる生徒の数は相対的に多くはないが、校内で園児の活動を見たり、校外での活動を聞く場面が一定あることから、肯定的意見は60%超で、中間的意見と合わせると90%を超える生徒の評価があるという結果になったと考える。

【自己評価△】

総合的な探究の時間での講演や、園児の活動、地域の活動の広報等、藤井寺市との連携を行っているということが実感しやすい環境にあり、比較的良好な評価になっていると考える。

[自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見]

3. 本年度の取り組み内容及び自己評価

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学習指導	1. 全教員は自身の授業に責任を持ち、授業規律の確立と学習効果をあげる方策を熟考・精査し、実践する。	・教員への指導・周知を徹底 ・公開授業と授業参観の実施 ・公開授業や授業アンケートを通じ教科会を用いた研究	公開授業・参観の実施 教科会での検討 各種研修への参加	1. 公開授業を年2回実施。同時期、生徒による授業アンケートを実施。それらを基に教科会議を通じ、授業改善を図った。
	2. ICT機器を活用した「主体的、対話的で深い学び」につながる魅力ある授業を実践する。			2. ICTを使用した授業を行う等、適宜創意工夫を行っている。結果として分かりやすい授業の実践や学力の定着について肯定的な評価は前年度より増加するとともに、否定的評価が減少した。更なる取り組みが必要である。 【教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている(2023 68.9%(生徒)56.0%(保護者))(2021→2023(生徒)62.2→59.6→68.9)】
	3. 必要とされる生徒への補習体制を強化し、一定の基準を満たさない場合は必須の補習を実施する。	・欠点者補習の定期実施 ・本校教員による放課後学習 ・自習室の確保 ・生徒からの質問や個別学習への対応 ・学び直しを含めたカリキュラムや放課後学習の検討 ・課題・補習による学習の担保	欠点者補習の実施 放課後学習の実施 自習室の確保 各生徒への対応 課題送付や補習の適宜実施	3. 夏期・冬期の休業中に欠点者に対し学び直しや学習の方法を教授する場として補習を実施。放課後学習や個別指導を通じた学力の定着を図る活動を本年度も実施した。結果として、肯定的な評価は前年度より増加するとともに、否定的評価が減少した。今後は、対面式のみならずICTを利用した学習機会の研究をより進める必要がある。 【教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図るように授業を工夫し、補習や個別指導を行っている(2023 70.7%(生徒)60.2%(保護者))(2021→2023(生徒)70.0→63.5→70.7)】
	4. 生活と学びを通して生徒の協同的な関わりを創出し、集団への帰属意識の高揚を図る。	・各コースや系統の特徴を活かした協働的な学びの実践 ・地域や校外での活動への積極的な参加	各コースや系統の特徴を活かした協働的な学びの実践 地域や校外での活動への積極的な参加	4. 総合的な探究の時間を軸に各コース・系統の目的に即した課題の設定と解決に向けた活動の実施、コース・クラブ・希望者等様々な団体による校外での活動への積極的な参加、コーラス大会を中心とした行事に取り組む過程など、様々な場面で協同的な関わりを創出し、協働的な活動を行わせることで、集団への帰属意識の高揚を図った。
	5. 各学科・コース目標の達成に向けた授業内容の検討と実践力の向上に努める。	・各コース・委員会の会議実施		5. 各コースで適宜コース委員会を実施し、コース目標達成に向けた取り組みについて課題を検討し、実践に取り組んだ。また、必要に応じ、各教科に各コース目標達成に向けた取り組みの依頼や補習の内容検討を依頼し、授業改善に取り組んでいる。
	6. 英語検定・漢字検定・簿記検定等、各種検定の重要性・意義の周知徹底と合格への支援を一層充実させる。	・朝の学習の時間を用いた漢字検定への取り組み実施 ・英語検定に対する科目の設置(文理ハイレベルコース)や放課後の講座開設	各検定に向けた取り組みの実施	6. 各種検定受検の意義・重要性について生徒に伝える。取り組みとしては、英語検定は、文理ハイレベルコースは科目授業を設置、その他の学科・コースは、本校教員による放課後講座を開講。漢字検定は教科による長期休暇の課題、朝の学習時間を活用した課題プリントの実施。全国商業高等学校協会主催簿記実務検定試験や情報処理検定へ向けた補習を放課後実施。結果としてそれらについての評価は向上しているが、検定結果が伴うものとなっていない。今後、結果の向上が果たせる取り組みの実施が必要である。 【教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している(2023 70.7%(生徒)66.0%(保護者))(2021→2023(生徒)72.2→62.7→70.7)】

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
生活指導	<p>1. 生徒の行動や状況を把握し、積極的にコミュニケーションを図り、問題事象が発生する前に予防的な指導を行う。</p> <p>2. 日々の教育活動で、挨拶の励行を実施する。</p> <p>3. 分掌・学年・担任・クラブ顧問等が連携し、問題事象について有効的な改善策を早期に講じる。また、適宜、校長・教頭・教頭補佐と情報共有する。</p> <p>4. 遅刻や欠席が多い生徒については、原因を把握した上で保護者とも連携・協力して生活指導を行い改善に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス、生徒個人に対する積極的な声掛けと対話の実施</li> <li>・教員からの挨拶の実施</li> <li>・関係教員による細かな情報共有と、意見交換を実施</li> <li>・問題事象発生に際し、適宜管理職に報告・相談を実施</li> <li>・保護者との連携に努め、電話等での連絡のみならず、家庭訪問等の実施により生徒の実態把握に努め、指導を行う</li> </ul>	<p>朝終礼や清掃活動、HR等様々な機会を通じ、声掛けや対話を行う生徒への促しにとどまらず、教員から挨拶を行う</p>	<p>1～4. 登校時の指導、朝終礼、授業における声掛けや、その時の生徒の反応や表情を丁寧に観察する。個別相談の実施、いじめアンケート実施等を通じ、生徒の状況把握に努め、学年・分掌・教科担当等で共有を行った。</p> <p>また、保護者への電話連絡や家庭訪問等を通じ、家庭での様子の把握、学校での様子の報告を行い、保護者との共通認識を作ることに努めた。</p> <p>【教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している(2023 68.1% (生徒) 58.8% (保護者))(2021→2023 (生徒) 66.5→60.9→68.1)】</p> <p>【教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている(2023 71.6% (生徒) 67.1% (保護者))(2021→2023 (生徒) 69.6→60.1→71.6)】</p>
	<p>5. 頭髪を含めた身だしなみ等の校則違反に対し、全教職員の同一理解と指導体制の構築を行い、差異のない指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・始業式等での全校一斉頭髪指導の実施と改善に向けた継続的な指導</li> <li>・学年が集まる場面を利用した指導の実施</li> <li>・違反等指導が必要な生徒に対し、一義的に指導を行うのではなく、聞き取りも含め、背景を探りながら、丁寧に指導する</li> </ul>	<p>保護者連絡の実施と情報共有を実践 全教員による同様の基準による指導と「納得得られる」指導の実践 指導が必要な時点で適切な指導を行う</p>	<p>5. 各学期初めの頭髪指導の実施、学年集会やLHRの時間を通じ生活指導部、担任が指導方針や校則について説明を実施するなど、繰り返し校則遵守について、生徒に話をしてきた。また、指導が必要な生徒については適宜指導するとともに、必要であれば個別に時間をかけて指導を繰り返している。指導を行った場合は、保護者に連絡を取り協力を依頼するなど学校と家庭が連携し指導するよう取り組んできた。生徒の評価は前年より改善されているが、今後も、生徒が自分の行いを内省できるよう、理解と納得を得させる指導のありかたを、引き続き検討・実践していかなければならない。</p> <p>【学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている(2023 63.5% (生徒) 55.9% (保護者))(2021→2023 (生徒) 52.6→54.9→63.5)】</p>
	<p>6. いじめの早期発見と対応に向けて、学期ごとに全校生徒を対象にアンケート調査を実施し、いじめ事象の有無についての把握と実態の解明・分析を行い、早期発見と解決に繋げる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ防止アンケート等による実態把握と迅速な対応</li> <li>・人権について日々の教育を通じて指導する</li> </ul>	<p>いじめアンケートの実施と対応 問題事象発生時の委員会開催</p>	<p>6. いじめアンケートの実施及び、日常の教育活動を通して生徒を観察し、いじめの早期発見に努めている。また、気がかりな生徒には声掛けを中心に対応している。しかし、SNSなど、年々いじめが表面化しにくくなっているのが現状であり、人権学習を中心に、生徒がいじめに関して自ら考え、正しい行動ができるように教育活動を行っている。</p> <p>【学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている(2023 61.8% (生徒) 42.7% (保護者))(2021→2023 (生徒) 53.2→56.5→61.8)】</p> <p>【人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している(2023 63.5% (生徒) 48.4% (保護者))(2021→2023 (生徒) 63.1→58.5→63.5)】</p>
	<p>7. 不登校や特別な支援が必要な生徒の特性を理解し、家庭とも連携しその発達課題に応じた丁寧な指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職、各学年、保健室、カウンセラー、医療機関等との連携</li> </ul>	<p>担任・学年・管理職・保健室・カウンセラーの連携を適切に実施 不登校委員会の定例実施</p>	<p>7. 不登校委員会を定期的に開催し、不登校傾向のある生徒のみならず、様々な「気にかかる生徒」の状況について各学年と保健室、カウンセラー間で詳細な情報共有を図った。精神的な不安定さが身体的不調となって現れるケースが目立っており、担任・養護教諭が家庭と連携を取り、必要に応じてカウンセリングや専門医による治療も視野に入れながら対応した。</p>
	<p>8. 行事や生徒たちの自治的活動を通して、一人ひとりが自分と仲間の個性と価値に気づきあえるよう指導を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各行事を通して、生徒自身が考え、準備をするなど、生徒自身が活動していく場面が増えるよう、支援を実施</li> </ul>	<p>生徒自身が自主的・主体的に活動できるよう支援する</p>	<p>8. コーラス大会や緑涼祭文化の部の取り組みは、生徒が自分と仲間の個性や価値に気づき、クラスで協働していく経験を得る機会となった。今後は、行事を行っていく中で教員がどのようにクラスに係るのか、生徒の主体性をどのように引き出していくのか、担任・学年団としての姿勢が問われている。</p> <p>【緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している(2023 68.6% (生徒) 76.0% (保護者))(2021→2023 (生徒) 55.2→61.3→68.6)】</p>
	<p>9. 18歳成人となる生徒たちに大人になる準備・心構え・責任を持つことの重要性を日常の生活指導を通じて教示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行事等を中心にクラスでの役割の設定と業務遂行の奨励</li> </ul>	<p>生徒個々に役割を割り振ることで責任について自覚させる</p>	<p>9. 生徒一人ひとりに責任を持たせることで、18歳成人に向けての指導を行ったが、今後とも、在学時に成人を迎えることを念頭に、指導のあり様を検討し実践していく。</p>
	<p>10. 制服改定に伴い、生徒会役員を中心に生徒に係る機会を設け、より良い制服の導入を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートの実施と生徒代表からの意見聴取の実施</li> </ul>	<p>アンケートの実施と意見聴取の実施</p>	<p>10. 生徒対象に制服に関するアンケートを実施するとともに、生徒会役員や執行委員会、風紀委員会を中心に新しい制服に関するヒアリング等を実施。生徒の意見を踏まえた制服を制作した。</p>

中期 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
進路指導	<p>1. 高校での学習や体験が卒業後の進路選択につながることを理解させ、学習意欲の向上を図る。</p> <p>2. 放課後学習・長期休暇中の補習を通じて、大学入学共通テスト・一般受験にも積極的にチャレンジできるように教科指導の機会を増やし習熟度を高める。</p> <p>3. 大阪商業大学・神戸芸術工科大学との高大連携を進めるため、総合的な探究の時間やキャンパスツアーを活用し、各大学の特色や魅力を具体的に伝え、進路選択の重要な柱として位置づける。</p> <p>4. 指定校推薦・協定校推薦の一層の充実が図れるよう大学・短大・専門学校との個別連携を深める。</p> <p>5. 就職を希望する生徒のニーズを把握し、高卒求人の新規開拓・充実に努め、就職に特化した指導に注力する。</p> <p>6. 調理製菓科では現場のシェフやパティシエ・パティシエールを招いた授業を取り入れ、インターンシップなどの参加を積極的に促し、ホテル・レストラン等と連携しながら生徒たちのキャリア育成を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HR や「総合的な探究の時間」を利用し、日々の学びと進路選択の関係について教授する</li> <li>・担任、学年等による進路についての情報提供</li> <li>・放課後講習や長期休暇時の補習の編成を工夫し、学習意欲及び学力の向上を図る</li> <li>・全員参加のキャンパスツアーによる大阪商業大学の周知</li> <li>・理事長講演をはじめ、大阪商業大学、神戸芸術工科大学の教員による講義の実施</li> <li>・協定校による様々な講義の実施と新たな協定校開拓を行う</li> <li>・求人票の閲覧と新規企業への高校求人を出発依頼の強化</li> <li>・就職希望者に対する早期指導の実施（就職活動や就職試験に必要な力など）</li> <li>・現場のシェフやパティシエ・パティシエールによる特別招聘授業の実施や、インターンシップの実施等、現場と繋がる実践的な教育活動の実施</li> </ul>	<p>進路学習の実施</p> <p>放課後や休暇中の補習の立案、実施</p> <p>大阪商業大学・神戸芸術工科大学の教員による講義の実施 大阪商業大学を中心としたキャンパスツアーの企画・運営</p> <p>協定校による出張講義の実施 受験結果の精査と情報提供</p> <p>求人票の整理・資料化と情報提供の実施 面接を中心とした就職試験対策の立案と実行</p> <p>特別招聘授業の実施 インターンシップの実施</p>	<p>1.2.4.進路に関する様々な情報の提供は、これまでのようにHRや総合的な探究の時間での講演と言った形で実施し、具体的に進路決定に向けた事柄を伝えてきた。指定校・協定校の情報は、職員室前に掲示し、新着情報をこれまで以上に随時更新とした。結果として、進学先は4年制大学・短期大学・専門学校と多岐にわたり、進学方法も指定校・協定校による推薦入試を軸としつつ、学校推薦型や一般型での進学と多岐・長期にわたってきた。それに併せ、3年生向けの補習はコース別ではなく、受験科目や受験したい学校のレベルに即した編成で実施した。これまで以上に学力等で受験する生徒への組織的・継続的な指導が必要である。</p> <p>3. 大阪商業大学については、総合進学コースを中心に「総合的な探究の時間」における講義や課題の設定、2年生のほとんどの生徒対象にキャンパスツアーを実施するなどの取組みの結果、3年続けて20名前後の進学者となった。今後は神戸芸術工科大学の周知等の対策を行い、系列校への進学者確保を目指す。</p> <p>5. 求人票をもとに、進路指導部・担任で繰り返し丁寧な相談と、企業訪問を実施するなど、生徒の希望と企業とのマッチングを丁寧に図った。また、数度にわたる面接指導を通じ、生徒の意識の向上を図り、より確実な採用結果へと繋げることができた。しかし、調理製菓科の場合、高校求人を出していないケースも多く、求人票の送付まで時間がかかり、生徒本人・保護者が不安に感じることもあったので、粘り強く、求人票の依頼を行う必要は今後も続けなければならない。</p> <p>6. 調理製菓科では、コースとしてインターンシップやマナー講座に伴う現場見学等の実施、現場のシェフによる授業の実施等、現場と学びの場を繋ぐ活動を行っている。これらの経験をふまえ、就職希望先としてインターンシップ先や、同様の職種・業態を希望する生徒も増えており、キャリア育成でも効果をあげている。 【教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している（2023 70.9%（生徒）68.1%（保護者））（2021→2023（生徒）71.1→63.1→70.9）】</p>

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
広報活動	<p>1. 生徒が十分に学び成長することが、最大の広報活動につながることを認識し、日々の教育活動を行うと共に、渉外活動を通じて中学校との関係を強化する。</p> <p>2. 大阪市・堺市の北部への開拓を深化させ、「近隣地域」の幅を広げて広報活動を展開していく。</p> <p>3. パンフレット・Web サイトに本校の魅力を十分に盛り込み、募集行事参加者の増加を図る。</p> <p>4. 合理的・有効的にサマーフェスタ・オープンスクール・学校説明会・個別相談会等を実施していく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の教育が広報活動であることを教員が認識し、教育活動を実施する</li> <li>・入試渉外を中心に中学校との連携を強化し、生徒の状況報告や相談を密にしていく</li> <li>・近隣中学校を中心に受け入れ授業・出前授業等の実施など、本校への来校機会の確保や本校との接点創出を図る</li> <li>・入試渉外の担当地域の明確化と重点校の設定による効果的で計画的な渉外活動の実施</li> <li>・大阪市・堺市北部等、新規開拓、関係性の深化を図る地域を明確化し活動する</li> <li>・パンフレット・ホームページの充実を図る。その為、各コースにおいても広報内容の検討・確認を行い、コースの魅力を発信する</li> <li>・広報に係る各種イベントの日程や内容を検討し、魅力的で効果的なイベントのあり様を考え、準備を進める</li> </ul>	<p>日々の教育活動 中学との連携状況 受け入れ授業・出前授業の実施 計画的な渉外活動の実施 各種外部説明会への参加</p> <p>近隣中学校及びその周辺、特に大阪市や堺市北部からの出願状況</p> <p>各種イベントの参加状況（参加者数やリピーターの状況等）</p>	<p>1. 職員会議等で校長より、日々の教育活動の結果が生徒であり、その様子がそのまま広報活動となることを伝えていくことで、教員が常にそのことを意識しながら、日々の教育活動を行っている。 また、入学前より必要に応じ積極的に中学校と連携を図ることで、情報の共有のみならず生徒の指導における課題等を共有しつつ、生徒の成長を促している。</p> <p>2. 近隣中学校からの受け入れは松原市の中学校を中心に行われており、3年生全員が本校に来校してくれる中学校もある。信頼関係の構築がうまくできているからであり、受験者数も増加した。この関係は今後とも継続していかなければならない。一方で出前授業は大阪市内を中心に行われており、広報活動の機会としては非常に重要である。これらの機会を利用し、オープンスクールへの参加や出願へと繋げていけるよう、内容の更なる充実を図る。</p> <p>3. 受験生が受験情報や学校の情報を集める際、ホームページは大きな割合を占めているが、ホームページに繋ぐ媒体としてSNSは有効なものと考えており、今後とも効果的な利用方法を模索しつつ、中学生と本校を繋ぐものとしていきたい。</p> <p>4. 本年度は、2022年度の自己評価を基に、オープンスクールの実施形態を変更した。全体としての数字は増加に転じており、相談件数も増加した。</p>

中期目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
地域連携	<p>1. 生徒たちの学びと成長の場である藤井寺・春日丘地域を美しく保全するため地域清掃等に取り組む。</p> <p>2. 水と緑の豊かなキャンパスを地元の保育園・幼稚園、親子散歩コースとして開放し、絵本読み聞かせ講座等を実施し、地域貢献を通して幼児教育の専門家を養成してきた藤井寺キャンパスの役割を継承する。</p> <p>3. 課外活動・クラブ活動に地域の親子が参加するイベント等を行い、住民とつながることで、藤井寺・南河内に根ざし、なくてはならない学校として定着するよう取り組む。</p> <p>4. 本校の教員・生徒が中心となって公開講座や講習・展示を行う。</p> <p>5. 生徒たちは、高校在学中に成人になるため、早期から藤井寺市の政策・事業について学び、審議会を傍聴すること等で、成人としての自覚や地域貢献の意識を高めていく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会・クラブ員を中心とした地域清掃の実施</li> <li>・保育園・幼稚園の散歩・校外学習の受け入れと保育系進学コースによる体験・観察実習の実施</li> <li>・藤井寺市を中心に地方公共団体や地域事業者主催のイベントへ、各コース・クラブ等で積極的な参加</li> <li>・「総合的な探究の時間」における講演の実施や、地域の歴史や課題に関する探究活動の実施</li> <li>・藤井寺市の委員会・審議会の見学実施</li> </ul>	<p>清掃活動の実施 保育園・幼稚園の受け入れの実施</p> <p>保育系進学コースの生徒による体験・観察実習の実施</p> <p>各種イベントへのコース・クラブ・有志での参加</p> <p>探究活動の計画・実施</p> <p>委員会・審議会の見学講演会の実施</p>	<p>1. 2. 地域清掃の実施、保育園・幼稚園の受け入れと保育系進学コースの生徒の対応、観察、民間事業者主催イベントへの保育系進学コースを中心とした生徒の参加、市民展へのクラブ出展と、様々な形で地域への参加が増えてきている。「地域と社会」系統でも藤井寺市に関わる内容について調べ学習をフィールドワーク形式で行うなど、地域に根ざした活動が増えてきた。</p> <p>3. 4. 年を追うごとにイベント等への参加協力の依頼や打診も増え、様々な形で地域との交流を図ることができるようになってきた。キャンパスの開放促進や地域社会への積極的な参加を通じ、様々な学びができる学校でありたい。</p> <p>5. 藤井寺市との連携協定の枠組みを通じ、各種イベントへの参加にとどまらず、本校を会場とした学びや活動の設定など、地域貢献のあり様を検討していく。 藤井寺市の審議会見学を実施した。参加者はまだ少ないが、このような機会を活かし生徒の意識の高揚を図る。 【学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）（2023 60.2%（生徒）59.4%（保護者））（2022→2023 54.3→60.2）】</p>

大阪緑涼高等学校「令和5年度 学校評価に係る外部評価者会議」議事録

日 時：令和6年10月9日（水）11時00分～12時45分

場 所：事務棟3階 第一会議室

出席者：藤井寺市教育委員会	教育長	見浪 陽一
藤井寺市区長会	会 長	上田 裕彦
藤井寺市春日丘自治会	会 長	坂本 民雄
辛國神社	官 司	伊藤 進
大阪緑涼高等学校保護者会	会 長	太田 文子
大阪緑涼高等学校	校 長	西本 真治
大阪緑涼高等学校	教 頭	菊地 慎二
大阪緑涼高等学校	教 頭	松田 裕史
大阪緑涼高等学校	教頭補佐	渡邊 祐子
大阪緑涼高等学校	事務長	渡辺 望

進 行：教 頭 松田 裕史

記 録：事務室 笠松 紀良、山崎 かほる

○自己紹介

本会議出席者より自己紹介を行った。

○校長挨拶

本会議参集に対する御礼と、本校の新たな学校作り等について様々な観点からご意見をいただきたいと述べられた。

○資料「令和5年度 大阪緑涼高等学校 学校評価」に基づき、菊地教頭より以下の報告が行われた。

1. 目指す学校像

学校法人谷岡学園の設置校である本校の建学の理念「世に役立つ人物の養成」に基づく、4つの柱を実現するため、以下8項目を目指す学校像として設定した。

- (1) 学ぶことの意義と楽しさを実感できる学校
- (2) 教養と知性の土台となる基礎学力をはぐくむ学校
- (3) 思いやりと礼節を重んじる心の教育を実践する学校
- (4) HR活動や学校行事・クラブ活動が活発で楽しく、成長できる学校
- (5) 生徒・保護者・教職員・地域が安心と信頼でつながりあえる学校
- (6) 南河内地域の豊かな自然や伝統・文化と出会い、学べる学校
- (7) 人が人として生きる権利が尊重され、いじめ・差別・暴力のない学校
- (8) 危機管理（新型コロナウイルス感染症対策・セキュリティ等含む）の重要性を理解し、安全のために予防対策を徹底して講じる学校

2. 中期目標

目指す学校像に基づき、具体化したものを中期目標として示している。

3. 評価年度の取り組み内容および自己評価

令和4年度と令和5年度の集計結果を比較すると、全体的に生徒の肯定的意見は増加している。中間的意見だけでなく否定的意見からも肯定的意見に移行しているが、肯定的意見が75%を超過していない点からは中間的意見が一定数存在していると考えている。また、保護者の意見と乖離している点は留意すべきであり、次年度以降の検討が必要と考えている。

- ・本校に入学してよかった、子どもを入学させてよかったかについては、生徒では肯定的意見が増加したのに対し、保護者では否定的意見が増加したことは、本校の教育活動が生徒には届いているが、保護者まで届いていないと考える。
- ・建学の理念や教育目標を分かりやすく示し教育に反映させているかについては、生徒の肯定的意見が増加しているのに対し、保護者の否定的意見が増加となっており、取り組みは行っているが保護者にうまく伝わっておらず、どのように伝えていくのかを検討していく必要がある。

- ・保護者向け情報サイトを利用した情報配信により、情報量は十分であると思われるため、反対に情報過多とならないよう情報の質を精査する必要がある。
- ・保健便り等の情報発信については、1年生から導入されたタブレットにより十分な情報提供ができており生徒の肯定的意見の増加に至ったと思われるが、保護者の肯定的意見が減少している。
- ・生徒の健康維持支援については、保健室の来室を含め安心して活動できるよう徹底していく必要があるが、来室数が多く長時間の滞在は困難であり、カウンセリングルームの活用も含めて検討を進めていく。
- ・ホームルーム活動等の活用方法について、生徒の肯定的意見が増加したことは、連絡事項や出欠確認だけではない活用方法の工夫を積極的に行ったことが結果となった。
- ・学習や高校生活等の相談については、評価が向上している点から、教員が生徒達の相談に答え、対応できていることが反映されていると考える。
- ・生徒の習熟度に沿った分かりやすい授業を行っているかについては、ここ数年来の課題としているが、生徒の肯定的意見が増加している点から、日々の取り組みが評価された結果であると考えられる。
- ・検定については、授業の延長に検定対策講座があるという認識を持って各教員が教育活動を行ったことが評価の向上へ繋がっていると考えるが、資格の取得という結果に結びついていない点から、教科だけでなく学年など全学的な取り組みの検討が必要である。
- ・基礎学力の定着については、生徒の肯定的意見が70%を超えていることから、入学時からの学力のレベル差対策として個別指導やわかる授業を意識し取り組んだ結果と考える。今後は、生徒自身が自ら取り組む形を目指していきたい。
- ・進路については、生徒の肯定的意見が70%を超過した。進路指導において、決めつけた指導はせず、生徒自身が自分で決めたと意識を持たせることが重要と位置づけしている。
- ・行事について、コロナ禍後、すべての行事を実施できたことが肯定的意見の増加した要因と考える。生徒が自主的に行動するために教員がどのようにサポートするかを今後も検討していく。
- ・生徒指導は、そもそも肯定的に受け取られない点はあるが、生徒が納得する指導をするよう心掛けている。指導される理由を生徒が理解できるよう丁寧な指導を行った結果、肯定的意見が60%を超えたと思われる。
- ・いじめ対策と人権については、学年会や日常会話など教員間の情報交換により、いじめが深刻化するより前に対応できるよう心掛けている。人権教育についても、今、生徒が必要としている情報を提供できるよう取り組んでいる。これらの取り組みの結果が肯定的意見に繋がっていると考える。
- ・施設設備については、生徒たちは支障を感じていないという結果となっているが、老朽化している校舎や、共学化による施設の使い方の変化を踏まえた対策が必要である。
- ・地域連携については、外部の連携事業の機会が増えたことが評価に繋がっていると思われる。また、活動をしている生徒だけでなく、その友達が活動を目にすることで地域連携を実感できる環境となっている。

#### (1) 学習指導

- ・学習効果を上げるため、公開授業を2回実施。うち1回は、ICTを活用した公開授業とすることで分かりやすい授業の実践例となり、授業改善に繋がった。
- ・長期休暇中の補習や、放課後講習および個人指導を通じ、学力の定着を図った。3年生については進路別講習を実施した。
- ・総合的な探究の時間では、各コースや系統別での課題設定と解決に向けた活動や、行事やクラブ活動等の様々な場面における協働的活動において、帰属意識の高揚を図った。
- ・英語検定や漢字検定等、資格取得のための情報提供や取り組みを実施しているが、結果に繋がっていない現状があり、更なる改善が必要である。

#### (2) 生活指導

- ・生徒の状況を把握し、指導される理由、どのようにすべきかを生徒自身に理解させる指導を丁寧に行っている。また、教員によって指導が異なることのないよう標準的な指導を行うことを徹底している。
- ・不登校対策については、不登校委員会において、不登校傾向のある生徒だけでなく、気にかかる生徒の情報共有を行い、組織的に自立支援を進める取り組みを行っている。

- ・18歳成人については、責任のある大人になるという意識づけを行っているが、取り組みの一つとして制服の改定に生徒会役員が関わることで責任を意識させることができた。

### (3) 進路指導

- ・調理製菓科は、就職する生徒の割合が高く、教員の企業訪問等で、生徒の希望に沿う求人を得ることができた。また、就職を見据えたインターンシップにより、ミスマッチが生じない進路選択ができる体制を確立し実践した。
- ・進学については、情報提供を積極的に行った。系列校である大阪商業大学や神戸芸術工科大学への進学についても進路保証の観点から取り組みを強化した。

### (4) 広報

- ・オープンスクール等のイベント開催も重要であるが、本校生徒に対する日々の教育活動自体が広報活動であるという認識を全教職員が持つことで、志願者確保に繋げていく。
- ・志願者は、ホームページからの情報収集の割合が多いため、ホームページによる情報発信や、掲載内容の改善を適宜行っている。
- ・近隣中学校への受入れ授業や出前授業についても、年々参加する中学校が増えており、信頼関係の構築に繋がっている。

## ○意見交換

菊地教頭からの説明終了後、外部評価者より、次のとおり質問・感想が述べられ、本校管理職と意見交換を行った。

意見：令和4年度に比べ、令和5年度は全体的に生徒の肯定的意見が増加しているが、保護者が伸び悩んでいると伺える。今後のためにアンケート結果を分析し、取り組みをされることを望む。

意見：進路において自己決定を促すと説明があったが、それを実行している点は、素晴らしい取り組みだと感じた。

意見：学力については、藤井寺市内の小中学校でも粘り強さが低下しており、読みきる力が必要と感じている。文化庁の国語に関する世論調査によると大人も含め6割が月1冊の読書をしないという結果があった。読書をしないということは、読みきる力の低下に繋がると考える。

意見：いじめ対策と人権について、保護者の否定的意見が増えている。対策はされていると思うが、保護者への情報配信を踏まえた対策が必要と考える。また、いじめには自己肯定感が深く関係しているが、アンケートに生徒の現状が把握できるような項目があると良いのではないかと考える。

質問：広報活動について、松原市の中学を中心にと報告があるが、藤井寺市の現状はどうか？

回答：藤井寺市の受験生は増加した。松原市は人口が多く、参加する中学校数が多いのでそのような表記となっているが、出願者の割合としては藤井寺市と松原市は同じ程度である。

意見：地域連携について、藤井寺市区長会でも審議会を開催している。藤井寺区長会の傍聴会への参加も希望する。

質問：広報活動について、近隣高校で懸垂幕を見かけるが、貴校ではしないのか？

回答：本校では、全国大会への出場があれば、懸垂幕をかけている。現在は、大阪商業大学藤井寺学舎に「全国和菓子甲子園 準優勝」をかけている。

意見：地域連携について、貴校の所在地である春日丘は、辛國神社から由来している。辛國神社の催しに積極的に参加していただきたい。神様に芸を奉納し感謝することは、伝統文化に触れるだけでなく地域連携にも繋がる。

質問：比較グラフについて、学年別の結果を見ると2年生で肯定的意見が下がっている傾向がある。何か対策できることはあるか？

回答：この傾向は他校でも見られる一般的な現象で、1年生が入学した時の指導と、2年生への自立

を促す指導、3年生が自立を理解した上で受ける指導と、学年に応じた指導方法を実践しており、生徒自身が3年間で成長し、指導の受け取り方に変化が生じた結果と言える。

意見：保護者としての意見だが、1年生の時にいじめ問題があったが、当時の担任が適切に対応しなかったことで教員の対応能力が低いと感じた。

ただ、調理師コースの教員に関しては、レベルの高い教育をしているので、教員の能力にレベル差があると感じている。

回答：いじめ対策も踏まえ、保護者との情報を共有し、対策を講じたい。

質問：生活指導において、18歳成人に対する指導は、難しい点ではないか。

回答：成人するとはどういうことか。責任を持った成人になってもらうにはどのように指導するのか具体化することが難しいと考える。

意見：今回、自民党総裁が変わり衆議院が解散するという、今起きている政治の動きを通じて意識づけさせることも必要ではないか。

回答：政治的なことは教育上言えないが、3年生で初めて投票する機会が生じる。投票権を有することとそれを行行使することの意味について伝えていくことが必要と考える。

最後に、進行の松田教頭から外部評価者へ貴重なご意見のお礼を述べた後、会議を閉会した。

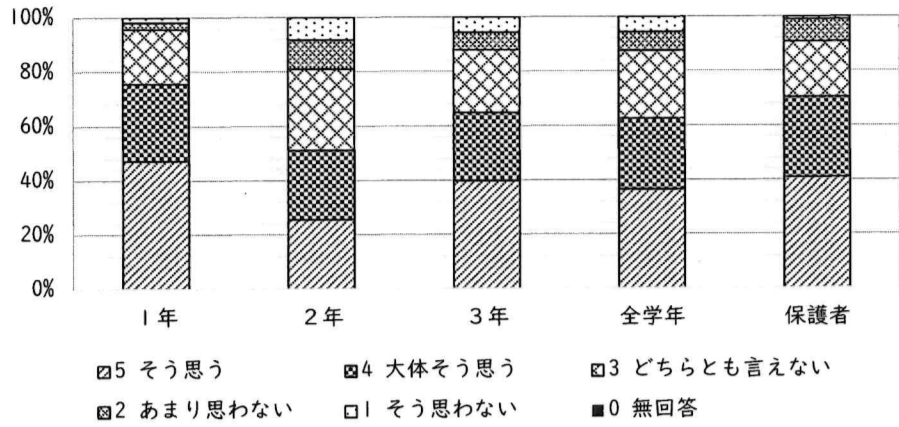
以上

2023年度 学校評価アンケート集計（設問は、保護者向けのものを使用しています）

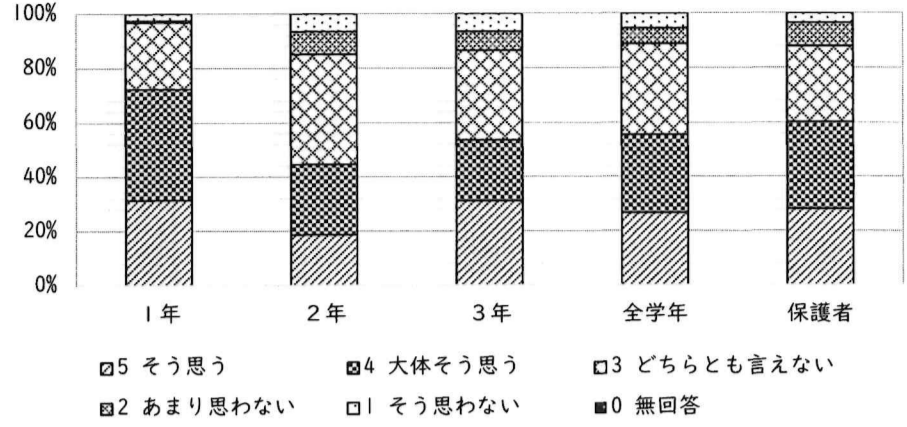
設問	学年	5	4	3	2	1	0	-	+
		そう思う	大体そう思う	どちらとも言えない	あまり思わない	そう思わない	無回答		
1 あなたは本校に入学してよかった 子どもを本校に入学させてよかった	1年	47.2%	28.3%	20.1%	2.5%	1.9%	0.0%	4.4%	75.5%
	2年	25.6%	25.6%	29.8%	10.7%	8.4%	0.0%	19.1%	51.2%
	3年	39.8%	25.0%	23.0%	6.6%	5.6%	0.0%	12.2%	64.8%
	全学年	36.5%	26.1%	24.8%	7.0%	5.6%	0.0%	12.6%	62.6%
	保護者	40.9%	29.4%	20.4%	8.2%	1.1%	0.0%	9.3%	70.3%
2 学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている	1年	31.4%	40.9%	24.5%	0.6%	2.5%	0.0%	3.1%	72.3%
	2年	18.6%	26.0%	40.5%	8.4%	6.5%	0.0%	14.9%	44.6%
	3年	31.1%	22.4%	32.7%	7.1%	6.6%	0.0%	13.7%	53.5%
	全学年	26.6%	28.9%	33.3%	5.8%	5.4%	0.0%	11.2%	55.5%
	保護者	28.0%	32.2%	27.6%	8.6%	3.6%	0.0%	12.2%	60.2%
3 学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている	1年	47.2%	39.6%	11.9%	0.6%	0.6%	0.0%	1.2%	86.8%
	2年	33.5%	31.6%	28.8%	2.8%	3.3%	0.0%	6.1%	65.1%
	3年	44.9%	29.6%	18.4%	3.1%	4.1%	0.0%	7.2%	74.5%
	全学年	41.2%	33.2%	20.5%	2.3%	2.8%	0.0%	5.1%	74.4%
	保護者	43.0%	33.4%	17.9%	5.0%	0.7%	0.0%	5.7%	76.4%
4 学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している	1年	36.5%	44.0%	15.1%	3.8%	0.6%	0.0%	4.4%	80.5%
	2年	30.2%	28.4%	31.6%	5.1%	4.7%	0.0%	9.8%	58.6%
	3年	38.3%	26.5%	25.5%	5.1%	4.6%	0.0%	9.7%	64.8%
	全学年	34.7%	32.2%	24.9%	4.7%	3.5%	0.0%	8.2%	66.9%
	保護者	22.9%	39.5%	30.8%	6.1%	0.7%	0.0%	6.8%	62.4%
5 教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している	1年	42.1%	36.5%	17.6%	1.9%	1.9%	0.0%	3.8%	78.6%
	2年	31.2%	27.4%	33.5%	4.7%	3.3%	0.0%	8.0%	58.6%
	3年	43.9%	26.0%	21.4%	4.1%	4.6%	0.0%	8.7%	69.9%
	全学年	38.6%	29.5%	24.9%	3.7%	3.3%	0.0%	7.0%	68.1%
	保護者	24.7%	34.1%	31.2%	9.0%	1.0%	0.0%	10.0%	58.8%
6 教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている	1年	44.7%	37.1%	14.5%	0.6%	3.1%	0.0%	3.7%	81.8%
	2年	34.9%	27.0%	32.1%	2.3%	3.7%	0.0%	6.0%	61.9%
	3年	44.9%	29.1%	18.9%	3.1%	4.1%	0.0%	7.2%	74.0%
	全学年	41.1%	30.5%	22.6%	2.1%	3.7%	0.0%	5.8%	71.6%
	保護者	33.0%	34.1%	24.7%	5.4%	2.8%	0.0%	8.2%	67.1%
7 教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている	1年	38.4%	45.3%	11.9%	1.9%	2.5%	0.0%	4.4%	83.7%
	2年	30.7%	29.3%	33.0%	4.7%	2.3%	0.0%	7.0%	60.0%
	3年	38.3%	28.6%	25.0%	4.1%	4.1%	0.0%	8.2%	66.9%
	全学年	35.4%	33.5%	24.4%	3.7%	3.0%	0.0%	6.7%	68.9%
	保護者	21.9%	34.1%	33.7%	8.2%	2.1%	0.0%	10.3%	56.0%
8 教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している	1年	46.5%	38.4%	13.2%	1.3%	0.6%	0.0%	1.9%	84.9%
	2年	31.2%	30.7%	33.5%	1.9%	2.8%	0.0%	4.7%	61.9%
	3年	44.4%	24.5%	22.4%	6.1%	2.6%	0.0%	8.7%	68.9%
	全学年	40.0%	30.7%	24.0%	3.2%	2.1%	0.0%	5.3%	70.7%
	保護者	29.7%	36.3%	26.5%	6.1%	1.4%	0.0%	7.5%	66.0%
9 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている	1年	49.7%	35.8%	12.6%	1.3%	0.6%	0.0%	1.9%	85.5%
	2年	30.7%	30.7%	33.0%	3.3%	2.3%	0.0%	5.6%	61.4%
	3年	42.9%	26.0%	25.5%	3.1%	2.6%	0.0%	5.7%	68.9%
	全学年	40.2%	30.5%	24.7%	2.7%	1.9%	0.0%	4.6%	70.7%
	保護者	22.6%	37.6%	30.1%	7.9%	1.8%	0.0%	9.7%	60.2%
10 教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している	1年	42.8%	39.0%	14.5%	0.6%	3.1%	0.0%	3.7%	81.8%
	2年	34.4%	27.9%	32.1%	2.3%	3.3%	0.0%	5.6%	62.3%
	3年	43.4%	28.1%	21.9%	4.1%	2.6%	0.0%	6.7%	71.5%
	全学年	39.8%	31.1%	23.7%	2.4%	3.0%	0.0%	5.4%	70.9%
	保護者	34.4%	33.7%	24.4%	6.1%	1.4%	0.0%	7.5%	68.1%
11 緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している	1年	50.3%	35.2%	9.4%	1.9%	3.1%	0.0%	5.0%	85.5%
	2年	26.5%	29.8%	33.0%	4.7%	6.0%	0.0%	10.7%	56.3%
	3年	41.8%	26.5%	22.4%	4.1%	5.1%	0.0%	9.2%	68.3%
	全学年	38.4%	30.2%	22.8%	3.7%	4.9%	0.0%	8.6%	68.6%
	保護者	41.6%	34.4%	17.6%	4.2%	2.2%	0.0%	6.4%	76.0%
12 教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している	1年	39.0%	35.8%	20.8%	0.6%	3.8%	0.0%	4.4%	74.8%
	2年	29.9%	24.3%	39.3%	3.7%	2.8%	0.0%	6.5%	54.2%
	3年	39.3%	22.4%	30.6%	4.6%	3.1%	0.0%	7.7%	61.7%
	全学年	35.7%	26.9%	31.1%	3.2%	3.1%	0.0%	6.3%	62.6%
	保護者	22.6%	33.0%	35.5%	5.7%	3.2%	0.0%	8.9%	55.6%
13 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている	1年	47.2%	32.1%	13.8%	4.4%	2.5%	0.0%	6.9%	79.3%
	2年	30.2%	25.6%	33.0%	4.2%	7.0%	0.0%	11.2%	55.8%
	3年	35.7%	23.5%	27.6%	4.6%	8.7%	0.0%	13.3%	59.2%
	全学年	36.8%	26.7%	25.8%	4.4%	6.3%	0.0%	10.7%	63.5%
	保護者	21.1%	34.8%	28.3%	7.5%	8.3%	0.0%	15.8%	55.9%
14 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている	1年	41.5%	32.1%	20.1%	3.1%	3.1%	0.0%	6.2%	73.6%
	2年	29.3%	25.1%	36.3%	4.2%	5.1%	0.0%	9.3%	54.4%
	3年	35.2%	25.0%	30.1%	5.6%	4.1%	0.0%	9.7%	60.2%
	全学年	34.7%	27.1%	29.6%	4.4%	4.2%	0.0%	8.6%	61.8%
	保護者	17.6%	25.1%	40.5%	10.0%	6.8%	0.0%	16.8%	42.7%
15 学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している	1年	39.0%	35.2%	20.1%	2.5%	3.1%	0.0%	5.6%	74.2%
	2年	30.2%	26.0%	35.8%	4.2%	3.7%	0.0%	7.9%	56.2%
	3年	38.8%	24.0%	29.6%	4.1%	3.6%	0.0%	7.7%	62.8%
	全学年	35.6%	27.9%	29.3%	3.7%	3.5%	0.0%	7.2%	63.5%
	保護者	16.1%	32.3%	39.1%	8.6%	3.9%	0.0%	12.5%	48.4%
16 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している	1年	41.5%	39.6%	13.2%	1.3%	4.4%	0.0%	5.7%	81.1%
	2年	33.0%	24.2%	35.3%	4.7%	2.8%	0.0%	7.5%	57.2%
	3年	40.3%	24.5%	28.1%	3.6%	3.6%	0.0%	7.2%	64.8%
	全学年	37.9%	28.6%	26.7%	3.3%	3.5%	0.0%	6.8%	66.5%
	保護者	24.7%	34.8%	35.8%	3.3%	1.4%	0.0%	4.7%	59.5%
17 学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている（総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等）	1年	35.2%	36.5%	22.0%	1.3%	5.0%	0.0%	6.3%	71.7%
	2年	25.6%	25.1%	40.9%	4.2%	4.2%	0.0%	8.4%	50.7%
	3年	39.3%	21.9%	30.1%	5.1%	3.6%	0.0%	8.7%	61.2%
	全学年	33.0%	27.2%	31.9%	3.7%	4.2%	0.0%	7.9%	60.2%
	保護者	22.9%	36.6%	36.2%	3.6%	0.7%	0.0%	4.3%	59.5%

2023年度 学校評価アンケート 比較グラフ

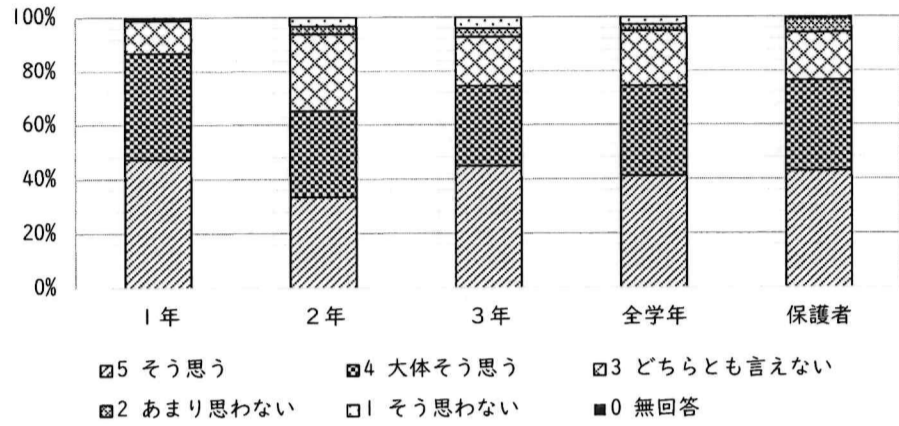
1. あなたは本校に入学してよかった  
子どもを本校に入学させてよかった



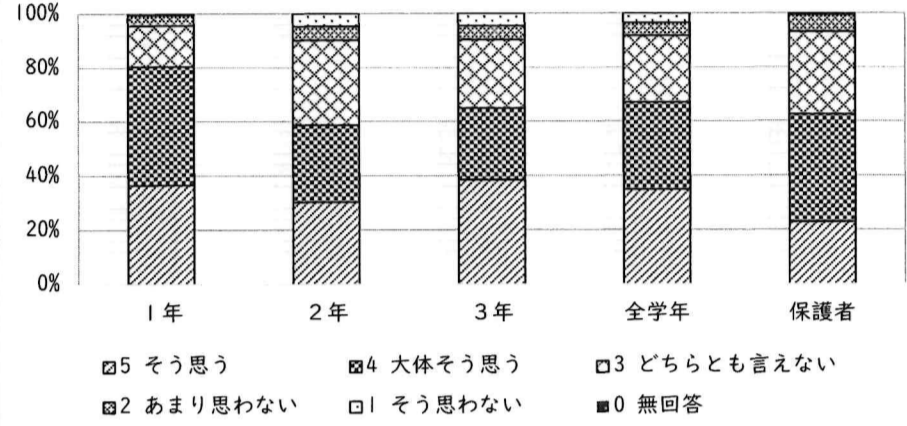
2. 学校は、建学の理念や教育目標を分かりやすく示し、教育に反映させている



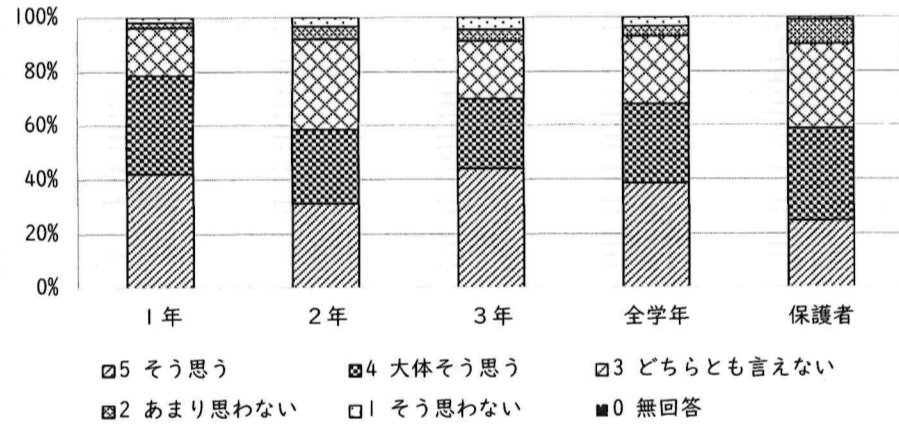
3. 学校は、学年通信やお便り、ホームページ等で、生徒・保護者への連絡や学校の様子をお知らせしている



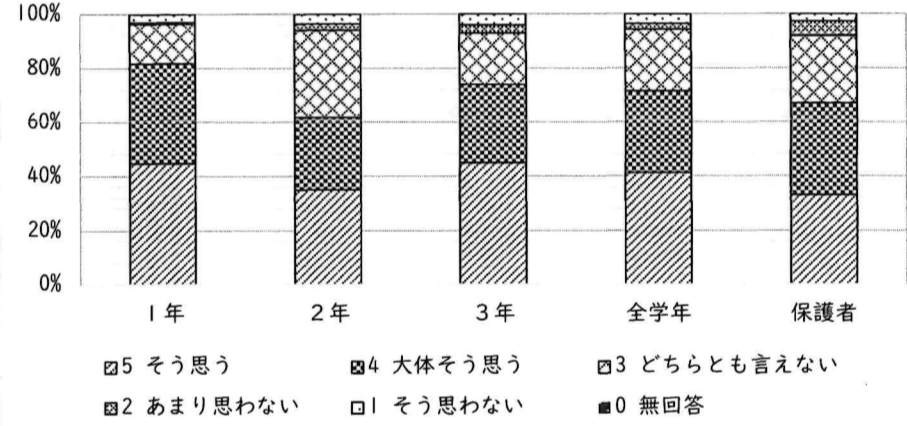
4. 学校は、保健便りや掲示等で保健室・カウンセラーの利用と健康促進を促し、生徒の健康維持を支援している



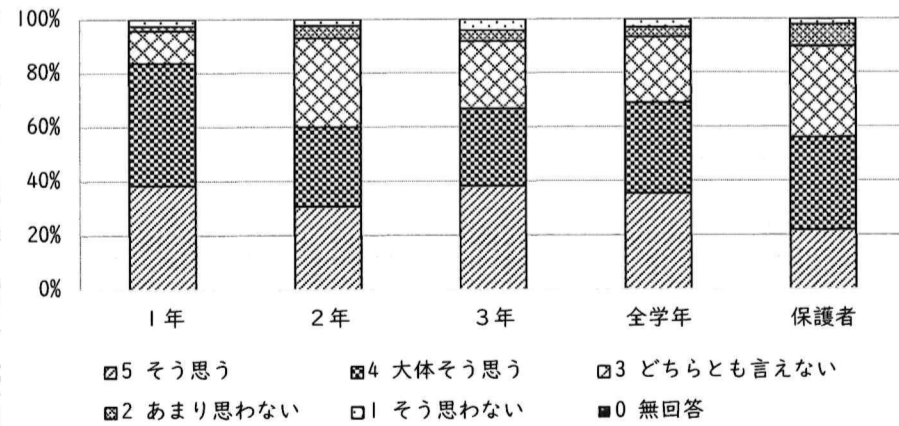
5. 教員は、朝礼・終礼、ホームルーム活動等を出欠確認や情報伝達だけではなく、生徒指導やクラス作りのために積極的に活用している



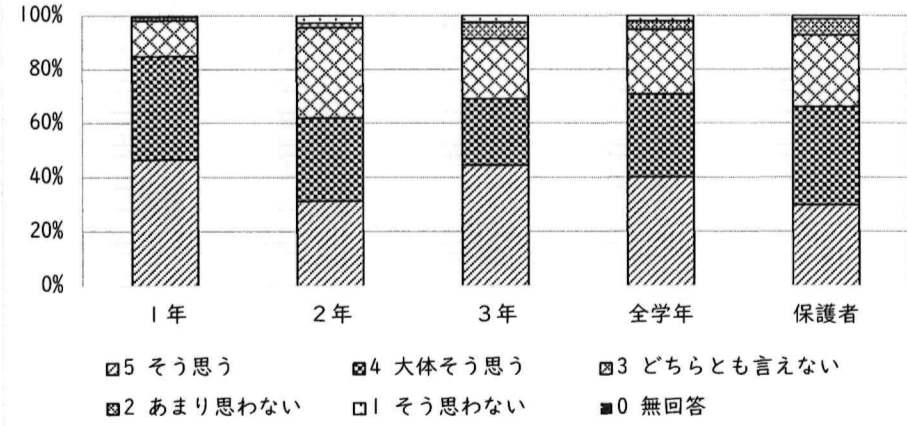
6. 教員は、学習に関する質問や高校生活に関する相談等に丁寧に応じている



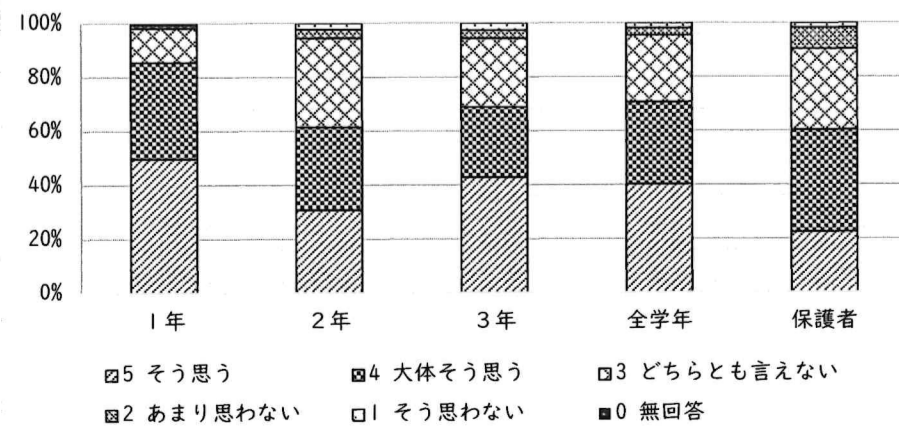
7. 教員は、生徒の習熟度や様子を確認しながら、教科の目標に沿った分かりやすい授業を行っている



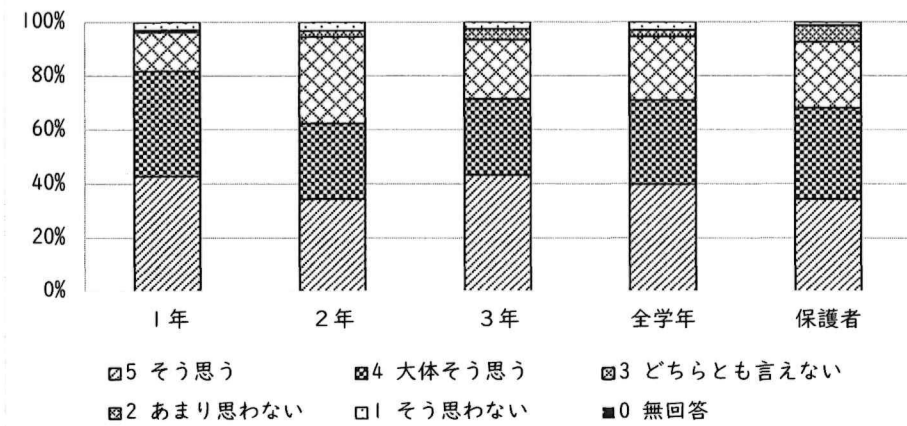
8. 教員は、英語検定や漢字検定や将来に必要な資格の情報を提供し、取得できるように指導・支援している



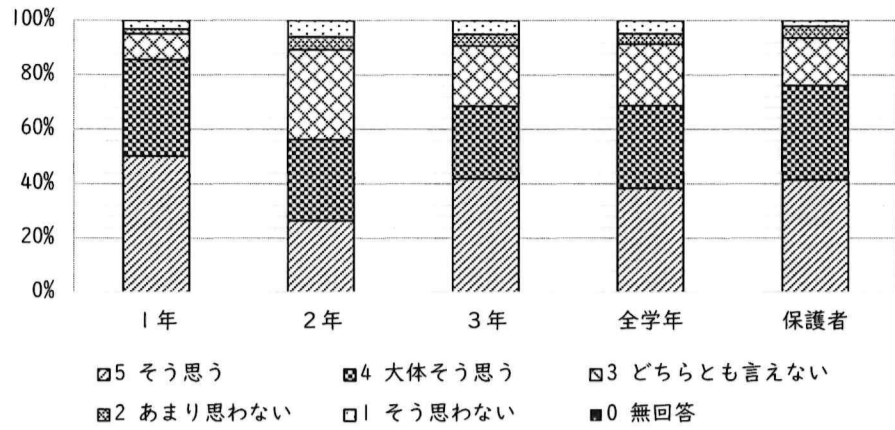
9. 教員は、生徒の基礎学力の定着と向上を図る様に授業を工夫し、補習や個別指導を行っている



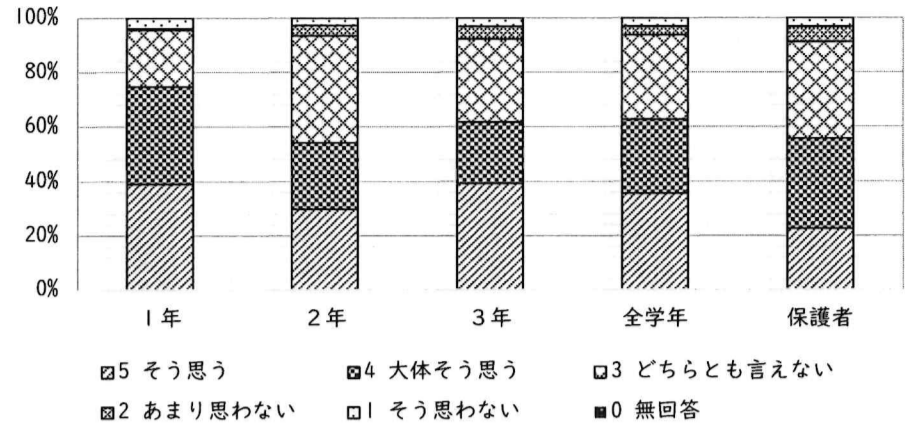
10. 教員は、進路について、総合の時間や個別面談を通じて情報を提供し、丁寧に指導している



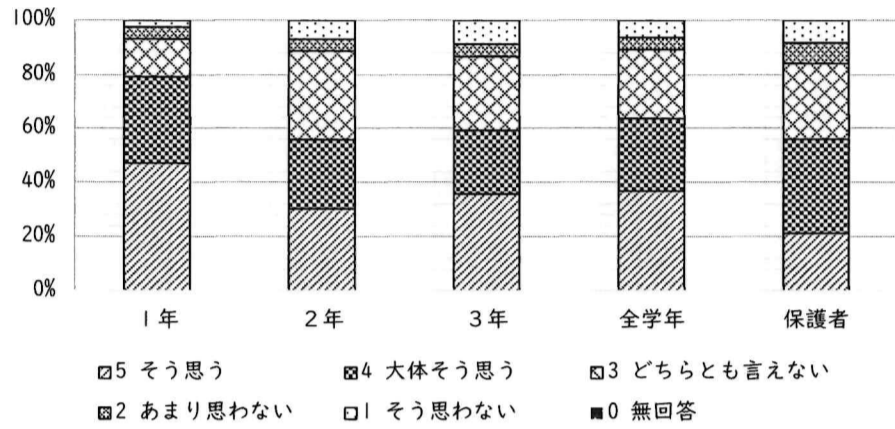
11. 緑涼祭や弁論大会、校外学習、芸術鑑賞、課外活動等、学校生活は楽しく充実している



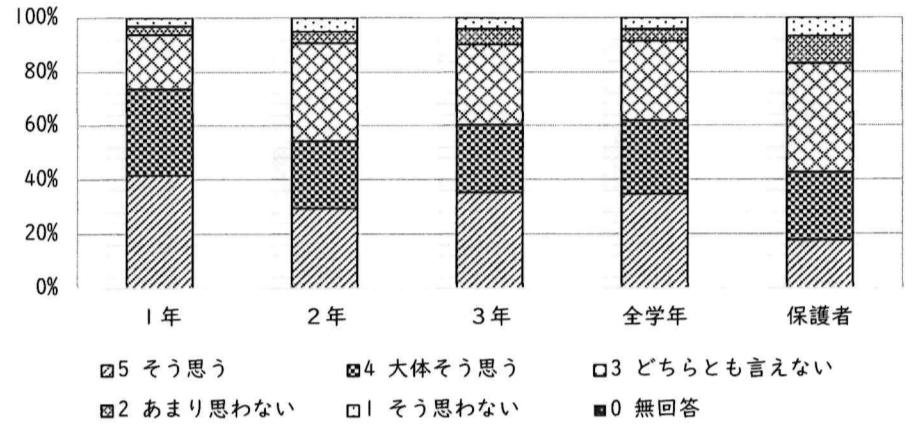
12. 教員は、充実したクラブ活動・生徒会活動等ができるように指導・支援している



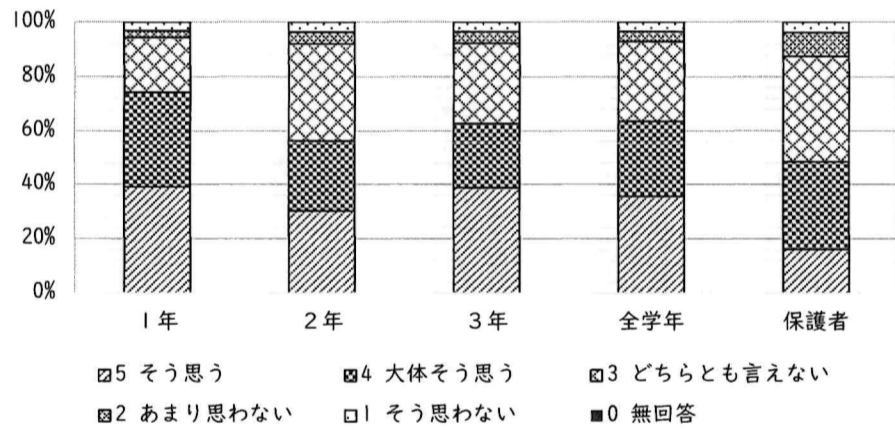
13. 学校は、遅刻や身だしなみ・頭髪について、適切な指導を行っている



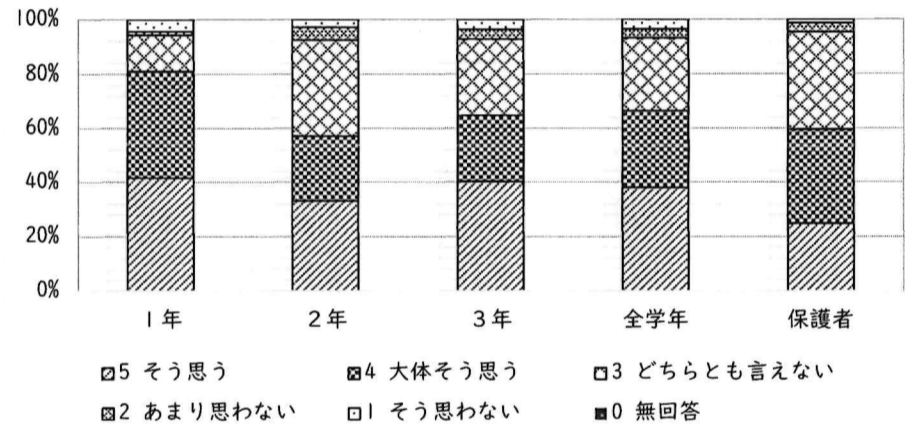
14. 学校は、いじめ防止のためにアンケート等で実態を把握し、迅速に問題を把握するとともに、生徒には悩みを聞き、保護者と連携して丁寧な対応をしている



15. 学校は、人権について生徒の意識が高まる様に講演会や日々の教育を通じて指導している



16. 学校は、施設設備を適正に整備し、下校時間やクラブ活動時間を決めるなど、高校生活に支障がないよう配慮している



17. 学校は、藤井寺をはじめとする地域社会との連携を深めている (総合的な探究の時間や保育園児・幼稚園児の来校、地域清掃、イベントへの参加等)

